

茅ヶ崎市 こども・若者の意見を聴く取り組み

アンケート集計結果報告書（18歳以上）

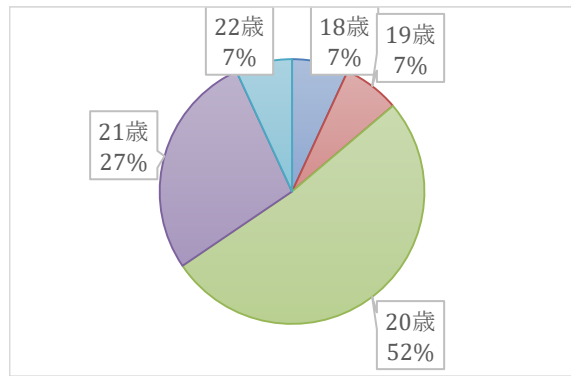
調査実施日：2025年4月～2026年3月



1. 回答者属性

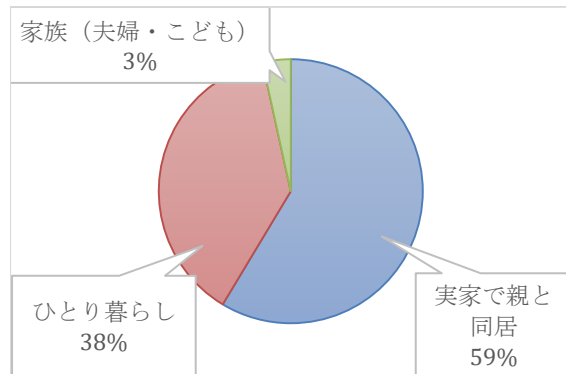
■ 回答者の年齢区分

年齢区分	件数	割合
18歳	2件	6.9%
19歳	2件	6.9%
20歳	15件	51.7%
21歳	8件	27.6%
22歳	2件	6.9%



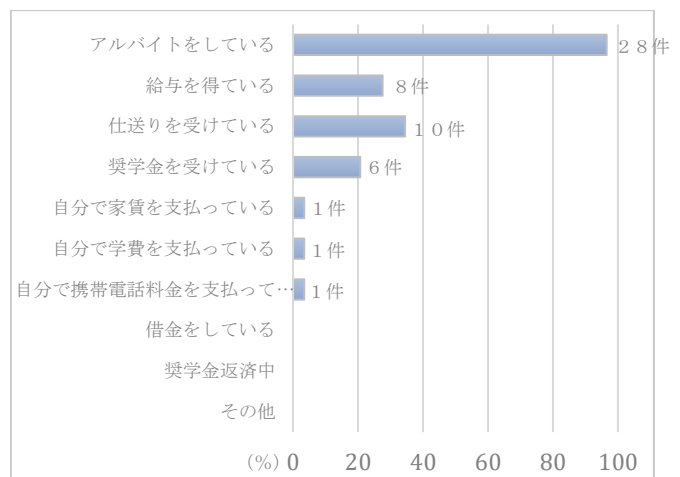
■ 居住形態

回答	件数	割合
実家で親と同居	17件	59%
ひとり暮らし	11件	38%
家族（夫婦・子ども）	1件	3%



2. 経済状況（複数回答）

回答	件数	割合
アルバイトをしている	28件	97%
給与を得ている	8件	28%
仕送りを受けている	10件	34%
奨学金を受けている	6件	21%
自分で家賃を支払っている	1件	3%
自分で学費を支払っている	1件	3%
携帯電話料金を支払っている	1件	3%
奨学金返済中である	0件	0%
借金をしている	0件	0%
その他	0件	0%



ほぼ全員の方がアルバイトをしています。仕送り受給（34%）、給与収入（28%）、奨学金受給（21%）と収入源は多様です。一方、家賃・学費・携帯を自己負担しているのは各1名にとどまり、多くが家族の経済的支援を受けながら生活しています。

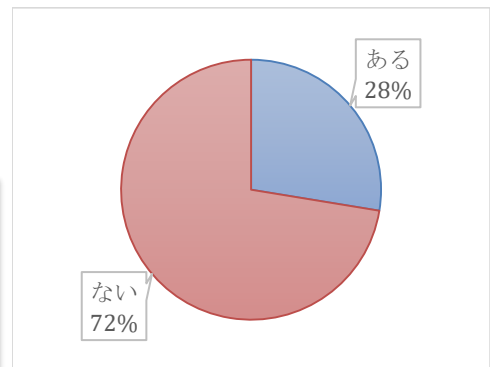
3. ストレス・不安と相談状況

■ 現在、強いストレスや不安を感じていることはありますか

回答	件数	割合
ある	8件	28%
ない	21件	72%

《理由》

就職のこと（6件）、学業のこと（4件）、友人関係（3件）、金銭関係（2件）、アルバイトのこと（2件）、家族関係（1件）、恋愛関係（1件）

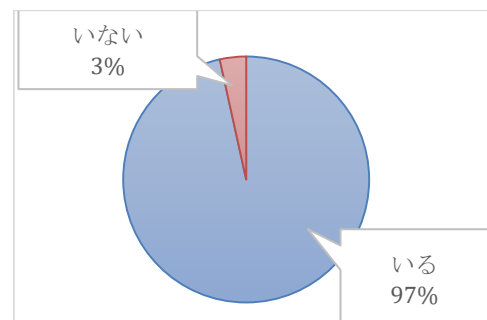


■ 悩みを相談できる人はいますか

回答	件数	割合
いる	28件	97%
いない	1件	3%

《内訳》

友人（22件）、家族（21人）、恋人（6件）、生成AI（5件）



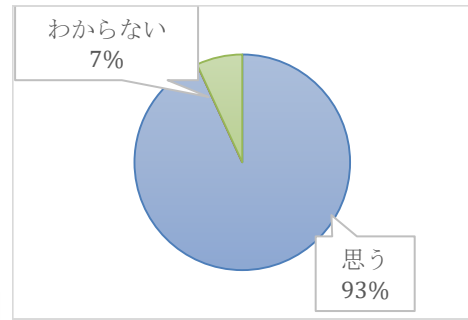
▶ ストレスを感じている8名のうち75%が「就職」を挙げており、将来への不安がストレス源となることがうかがえます。また、相談相手に「生成AI等」を選んだ約18%という数字は、デジタルネイティブ世代の新たな相談行動として注目されます。

2. 結婚・子どもに関する意向

■ 将来結婚したいと思いますか

回答	件数	割合
思う	27件	93%
思わない	0件	0%
わからない	2件	7%

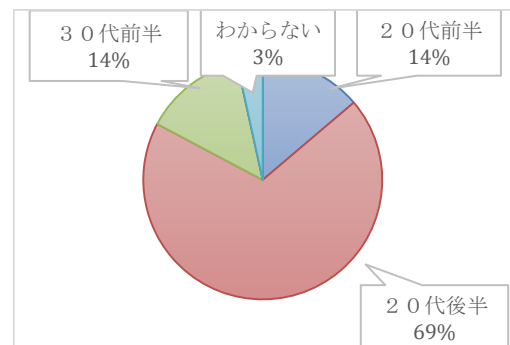
理由：考えたことがない。1人暮らしが性に合っている。



▷ 結婚の理想的な年齢とその理由

年代	件数	割合
20代前半	4件	14%
20代後半	20件	69%
30代前半	4件	14%
30代後半	0件	0%
わからない	1件	3%

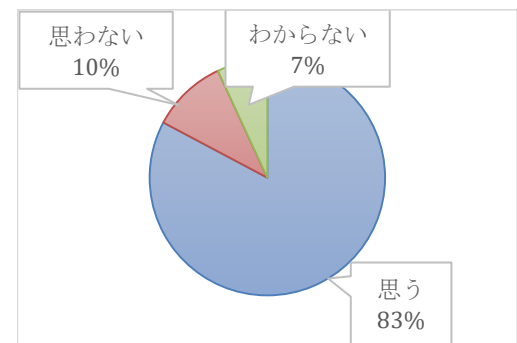
93%が「結婚したい」と回答。理想の時期は「20代後半」が69%と最多で、「20代のうちに」を理想とする割合が高いです。



■ 将来、子どもを持ちたいと思いますか

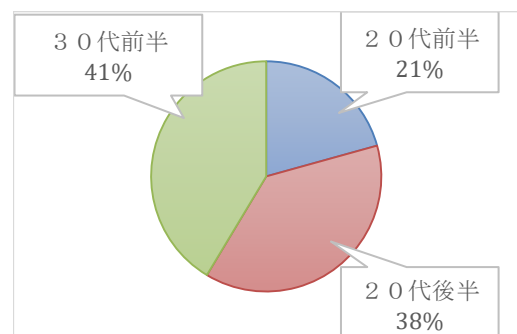
回答	件数	割合
思う	24件	83%
思わない	3件	10%
わからない	2件	7%

理由：考えたことがない。金銭的な面で不安があるから。
お金がない。将来の不安や経済的な不安があるから。



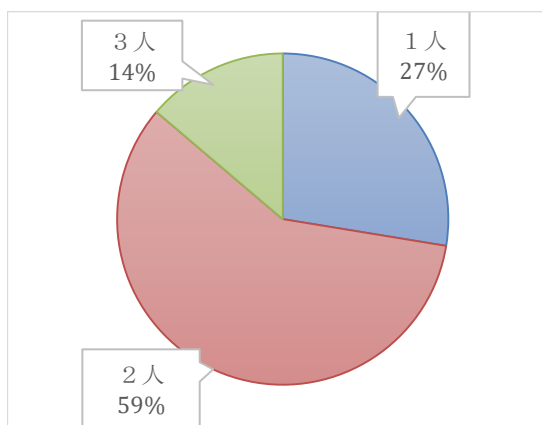
▷ 第1子を持つ理想的な年齢

年代	件数	割合
20代前半	6件	20.6%
20代後半	11件	37.9%
30代前半	12件	41.3%



▷理想的なこどもの人数とその理由

人数	件数	割合
1人	8件	27.6%
2人	17件	58.6%
3人	4件	13.8%

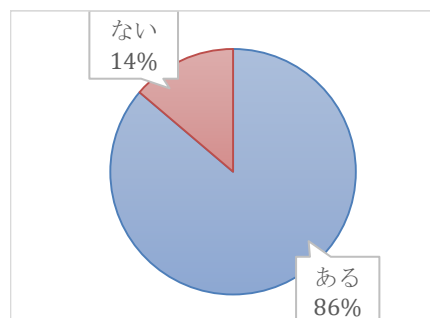


▶ 注目：将来、こどもを持ちたいかという質問に対し、「思わない」「わからない」と回答した方の理由として、経済的不安が多数挙がっています。「お金がない」「金銭的な面で不安」「将来の経済的不安があるから」など、結婚・出産の障壁として経済的課題が明確に認識されています。

2. 将来への不安

■ 将来に対して不安はありますか

回答	件数	割合
ある	25件	86%
ない	4件	14%



理由：就職や家族のこと。経済的に自立できるかどうか。子育てや養育にかかる費用を稼げるかどうか。結婚・出産・就職。結婚をしたいという思いはあるが、相手に巡り会うことができるのか。子供を望んでいるが、その時実際に望める環境にあるのか。社会問題が多く存在し、近い将来自分の子供の世代までも明るい未来が確約されていないこと。生活するのに十分なお金を稼げるのか。結婚できるかどうか。孤独死。安定した収入。老後の不安。結婚できるかどうか。森羅万象。お金。自由の制限。無事結婚して子供ができるのか。社会保障。働きながら子育てできるか。お金のこと。

3. 好きなまち・苦手なまちのイメージ

■好きなまちとその理由

都市名等	理由
名古屋	美味しいご飯が多い。街がコンパクトなので、機能性も高く、住みやすい
早稲田	飲食店の人が学生にフレンドリーで、話しかけてくれるから。学生に優しい値段のレストランやビリヤードなど娯楽が揃っているから。
茨城県ひたちなか市	自分が育った場所であり、自然と商業施設などのバランスが取れていて過ごしやすと感じるから。
中野区	人の温かさを感じられて都会過ぎないから。
和歌山県紀の川市	自然豊かで果物がおいしいから。
横浜市	買い物やレジャーなどの大半の用事が市内で完結するため、住みやすいと感じているから。
群馬県高崎市	生まれ育ったまちだから。
宮城県仙台市	旅行で訪れた際に素敵なまちだったから。程よい規模感の都市で、居心地がよい。牛タンが美味しい。
空気が美味しいまち	—
長崎	うまれそだったから
いい具合に都会で田舎な街	利便性と住みやすさを兼ね備えているから。
程よく郊外の街	利便性を担保しつつ、都会の喧騒から逃れられるから
ひたちなか市	地元だから
吉祥寺	都会すぎず、いろいろな施設がある。それに公園が多く、憩いの場所があるから。
市川	駅周辺は栄えていながらも、落ち着いた雰囲気が感じられる。
大洲	歴史的な街並みが好きだから。
京都	日本らしさがあるとことと、落ち着いた街並みが魅力的だから。
京都市	古い街並みが好みなため。
ちょうどいい街	子育て支援が充実している 親の負担はないような支援をしている
地元 稲城市	自然など景観がよく、治安もよい。 人口も10万に満たないくらいで過ごしやすい。
藤沢、鎌倉	海があり、歴史的な文化財などの街並みが綺麗だから

■ 苦手なまちとその理由

都市名等	理由
新宿	治安の悪さを感じるから。
池袋	場所にもよるが、売春など倫理的、社会的に良くない事が横行していて、商業的要素が強すぎるように感じるから。
新宿、池袋、渋谷	人が多く雑多で汚いイメージがあるから。
渋谷	過度な人の量
東京 23 区全域	道が狭く、運転がしにくいため。
群馬県大泉町	海外の方ばかり！！
人が多くいるまち	ー
しづや	いそがしくて人に関心がなくてさみしいから
田舎すぎる街、都会すぎる街	利便性がなかったり、住みにくかったりするから。
都会のど真ん中	疲れる
梅田	治安が悪い、駅がわかりにくい
渋谷	人が多い、臭い。
大阪	繁華街でコテコテの関西弁で話しかけられたり、賑わってテンション高めだったりする感じが肌に合わないから。
行政が全て自分たちで行う	全て任せてしまうと偏った政策になってしまうからである
東京 23 区	人混みが苦手なため。
新宿	人の多さや息苦しさを感じるから

好きなまちの傾向として「程よい都市規模」「自然と便利さの共存」「人の温かさ」が共通キーワードとして挙がりました。苦手なまちは三大副都心（新宿・渋谷・池袋）を中心とした過度な人口密集地が多数で、「孤独感」「治安」「雑多感」が忌避の主な理由です。

4. 行政が行う意見聴取の手法・社会への意見

■ 若者の意見を集めるための効果的だと考える手法

- ・ お祭りなど地域のイベントを若者と一緒に運営する仕組みを作り、その準備期間で関係性を築いてから話を聞くようにするとより正直な意見が聞けるのではないかと思います。
- ・ アンケートを実施して、答えてくれた人に対しては市内で使える商品券を配るなどのインセンティブをつける。
- ・ 聞き取り調査。議会への参加。学校訪問。
- ・ 裁判員制度のように市民から抜粋して協議会や委員会に参加することができるような制度
- ・ ワークショップの開催。年代別に開催するとよいかも。

■ その他、社会全体に対する意見

- ・ こんな時期に選挙をするべきではないと思います？（令和8年2月実施のアンケート調査より）

・税金諸々を下げて欲しい。

5. まとめと考察

本アンケートには18～22歳の大学生29名（男性15名・女性14名）が回答しました。全員が大学生であり、実家暮らし59%と一人暮らし38%が混在する中、97%がアルバイトを行っており、アルバイトと学業を両立しながら生活している方が多いです。

将来の結婚意向は93%、子どもを持つ意向は83%と高く、若者世代の家族形成への前向きな姿勢が確認されました。理想の結婚時期は「20代後半」が69%と最多で、理想の子ども数は「2人」が59%です。

しかし、将来、子どもを持ちたいかという質問に対し、「思わない・わからない」と答えた層の理由は経済的不安に集中しており、実際の行動につながるには経済的支援が不可欠であることが示されました。

将来不安は86%が「ある」と回答し、その内容は就職・収入・子育て費用・老後・社会保障など経済面が中心です。ストレスの最大要因も「就職」（ストレスあり層の75%）であり、就職・キャリア形成への不安が現役大学生の最大の課題となっています。

相談相手に「生成AI等」を挙げた回答者が18%存在しました。デジタルネイティブ世代の相談行動の変化として受け止め、行政の相談窓口等のあり方にも検討が必要であると考えます。

好きなまちの条件として「程よい都市規模」「自然と利便性の共存」「人の温かさ」が挙がっており、茅ヶ崎市はこれらの条件を満たしやすい環境にあります。若者の声を活かしたまちづくりに向けては、ワークショップ・学校訪問・インセンティブ付きアンケートなど能動的な意見収集手法の導入が提言されました。

以上